

清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定

第3回策定委員会 議事録(案)

日時) 2023年4月27日(木) 15時~17時

出席者) 策定委員 長澤委員長 谷口委員 相蘇委員 笠原委員 中越委員

俣野委員 高野委員 宮本委員 大島委員

事務局 南部部長、北平課長、太田係長、若野主事、野島、島田、根岸(記録)

欠席者) 齋藤副委員長 佐藤委員 江村委員

資料) 資料1: 第2回清瀬市新校開設に向けた基本構想及び基本計画策定委員会議事録案

資料2-1: 新しい学校施設づくりの目標 グループワーク 各委員のメモ

資料2-2: 策定委員会グループワーク「新しい学校施設づくりの目標」概要

資料3: 清瀬市立新小学校 基本構想・基本計画 スケジュール修正案

資料4: 第二回 清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップまとめ

資料5: 学校支援本部コーディネーターヒヤリング要旨

資料6: 現時点の計画条件について

資料7: 新しい学校施設づくりの目標(案)

資料8: 小中のつながりを活かした新しい学校の教育的可能性について

参考資料1: 委員名簿

参考資料2-1: 第二回 清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ記録

参考資料2-2: 第2回市民ワークショップ事例写真

参考資料3: 学校支援本部について

参考資料4: 図書館リニューアル(清瀬中学校)

参考資料5: 清瀬小学校ボランティア募集

参考資料6: これからの学校と地域(文部科学省資料)

参考資料7: 清瀬小学校・清瀬中学校 平面イメージ

参考資料8: 清瀬市特別支援学級再編計画

参考資料9: 小中一貫校のタイプ

参考資料10: 視察候補

1. 委員の紹介・あいさつ(大島委員)

- ・教育指導課長として4月1日に赴任した。
- ・策定委員会の3回目から出席となるが、これまでの議事録を確認している。皆さんと夢のある学校づくりを行っていければと思う。

2. 前回議事録の確認

- ・議事録に誤りがあった場合は、後日修正とする。

3. 議題

長澤委員長

- ・年度が改まりましたが、あらためてよろしくお願いします。
- ・姿が見えてくる段階に入る。その分言いたいことも増えてくるだろう。存分に議論していただきたい。
- ・こどもたち、地域の方々へプレゼントとなる施設づくりができればと思う。

報告事項

(1) 基本計画スケジュール *概要を事務局より報告

A委員

- ・教職員協議はどの程度のもを想定しているか確認したい。

事務局

- ・全教職員に参加いただくのは難しいだろう。主要な先生方を対象に1時間半程度でお話を伺いたい。
- ・詳細は改めて相談したい。

長澤委員長

- ・事務局は時間の取り方や資料の用意の仕方等について、校長先生と相談しながら進めていただきたい。

(2) 第2回清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップの報告 *概要を事務局より報告

長澤委員長

- ・写真は従来の教室に机が並ぶとは違うようなものを選ばれている。イメージ写真を通して発想を膨らませるかたちで参加者から意見を聞いた。
- ・この写真にないもので大事にしたい意見があればお願いしたい。
- ・学び、生活、地域との関わりという視点で意見が聞けたが、チームの名前をみても、リラックスできる、心がやすまる、オープンにするなど、学校は学びの場であると同時にゆっくり過ごせる場所であるという気持ちが表れていると思う。

B委員

- ・皆さん素晴らしい意見だったように思う。

C委員

- ・写真のような学校が実現できるとよいなと思う
- ・一方で、ゆとりがあるということは面積が必要であるので、どこまで実現できるかが課題になりそうだ。

A委員

- ・当日は私も参加したが、様々な立場の意見を聞いた。
- ・現状は安全管理がしにくく、特に3か所の校門は目が届きにくい。
- ・ワークショップの意見としては学びの場、生活の場に関しての意見が多かったが、今は狭さを感じる。ゆとりある機能的なスペースの要求が高い。

D委員

- ・ワークショップの様子から、いろいろな人のいろいろな思いがあった。

- ・事例写真のような内容の全部ができるかわからない中で、何を優先するかを委員会で考えていければと思う。
- ・夢はひろがってきているが、収束することがとても難しいと思った。

長澤委員長

- ・基本構想はまず夢を膨らまそうという段階である。その中で、何を優先するか判断を求められるかもしれないが、目標をしっかり掲げていければと思う。
- ・安心安全は第一に大事で、先生方の目が届くということと、子どもたちにとっても先生の目が届いているという安心感が必要だろう。現状目が届かないということは第1市民ワークショップでも指摘があった。
- ・現状課題を抑えつつ、解消していくことと、現状で大事にしているものを継承していき、それらを総合した姿を考えていければと思う。

(3) 調査報告 学校支援本部コーディネーターヒヤリング *概要を事務局より報告

D委員

- ・清小の地域支援本部は八小との運用ではない。清小の地域コーディネーターの考え・取り組みが全ての学校に当てはまるわけではない。
- ・とりあえず、清瀬小の計画なので、清瀬小の事例として理解した。

A委員

- ・コロナで活動が難しかった部分もあるが、地域コーディネーターには尽力いただいている。
- ・R6年度より始まるコミュニティスクールとの取り組みや関係性についても整理する必要があるだろう。

長澤委員長

- ・文部科学省では新しい学習指導要領でチーム学校、社会で子どもたちを育てていくことをテーマにしている。チーム学校は教職員同士の協働だけではなく、保護者、地域の方々、NPOなど、幅広い方々との協働を求めている。
- ・共創という言葉で表すこともできるが、まずは地域コーディネーターの活動を踏まえて学校施設環境を考えてみることもある。
- ・いずれにしても、PTAなどの組織を含めて地域社会で子供を育てる、地域のみなさんが関わるような場面が求められるのではないか。

E委員

- ・コミュニティスクールの設置に向けて準備しているが、学校支援本部がどうなるかは未定である。
- ・ボランティアの参加が少ないという課題があった。ICTの活用からDXを図っていくことも大事だろう。

長澤委員長

- ・地域との関わりは学校によって違いがあるだろう。本校としてどのような地域との関わりをもっていか、情報ネットワークを生かして関係性を広げていくかをテーマとしていけるとよいのではと思う。
- ・例えばコンシェルジュというような名称で、皆さんに見える形で役割をつくって学校と地域のつなぎ役を導入する動きがある。
- ・そうした事例も参考にしていきながら、学校づくりの機会に議論できればと思う。

(4) 計画条件 *概要を事務局より報告

C委員

- ・ビル管理の対象となるか、確認したい。ビル管理を入れたほうがよいと思う。
- ・給食室の共用は両校への運搬が必要である。
- ・できれば清中の体育館も老朽化しているので、1・2階を分けられる体育館が良いのではと思う。
- ・2か所の体育館を管理するより、管理しやすいと思う。
- ・体育館を新しい学校の目玉とできるような施設更新ができるとよいと思う。

事務局

- ・学校施設は延床面積8,000㎡を超えるとビル管理法に該当するので、計画面積は対象となる。
- ・ただし、渡り廊下等につなげて別棟扱いとする場合は該当しない可能性がある。建築主事との協議による。

長澤委員長

- ・ビル管理法の法律の中だけではなく、こういった内容を抑えたいかを委員会で整理し、もし法の対象とならない場合でも必要なこととして計画していけるとよいように思う。
- ・維持管理についてもトータルに考えていく必要があるという意見と受け止める。

事務局

- ・清瀬中の校舎をすべて建て替えることは難しいかもしれないが、体育館は古いと認識しており、小中連携で9年間の学びを考えていく中でも、合同の体育館を設えていくという意見もあるだろうと思っている。

D委員

- ・現状は2階建て校舎だが、3階建てにしても余地がないように思う。事務局には計画の可能性について示してほしい。
- ・現状校舎面積より計画面積は約2,000㎡増えるということだが、広さの感覚がよくわからない。面積のイメージが持てるようにしてほしい。

長澤委員長

- ・面積のイメージについては、数字だけではわかりにくいので、資料や視察を通して体感できるような機会を設けてほしいという要望として事務局にお願いしたい。

事務局

- ・現状校舎面積は5,939㎡である。この面積は学童保育も含まれる。内訳については次回示す。
- ・室構成や面積等については今後具体的に提案していく。わかりやすい資料を用意したい。

A委員

- ・何が決まって、何が決まっていないかを整理したい。複合施設化、中学校のプールもなくなるか、新校舎に給食室をつくる、もしくは清瀬中の給食室を利用するのか等である。

事務局

- ・現段階で複合化は学童のみと考えている。

- ・清中プールの利用はなくなり、解体することとなり、校地として活用することになる。新校の配置も合わせて総合的に検討する必要があるだろう。

A委員

- ・道筋がないと意見がまとまらないと思うが、様々な意見を出すということによいか。
- ・小中連携の観点で体育館を1つにして、小中合同で利用するという意見もあるが、24学級+3学級の小学校と20学級程度の中学校で利用するのは現実的ではない。

長澤委員長

- ・確定していないものがあるので、様々な意見を出すということによいと思う。
- ・体育館は利用率等を整理して、無理のない施設計画が必要となる。
- ・全体の施設構想の中で、複合化は学童のみだったか確認したい。

事務局

- ・上位計画では中清戸と中里地域市民センターや老人いこいの家を将来的には複合施設として配置する可能性があるが、複合施設としては現時点で考えなくてよい。

長澤委員長

- ・新校ができてすぐ複合化するわけではないという事であるが、将来的な姿を想定しながら計画できるとよさそうだ。

F委員

- ・給食室を小中一緒にして400㎡では足りないのではないかと。成長段階を踏まえると小学校と中学校で給食の内容が変わったり、アレルギー対応できる室が必要だったりと対応が必要となる。主食だけは共通の調理機器とするなど具体的に考えなければならぬのではないかと。

D委員

- ・特別支援学級が情緒学級だけになるが、情緒は教科内容が1年から6年まで違う。そのため6教室にわかれることができるようになることによい。また、児童数に対して教員人数が少ないので、1教室を可動の壁で仕切れるなど、教員が教室を見渡せる設えが望ましい。
- ・ただ、情緒障害の子供たちは音に敏感なので、可動間仕切だと音が漏れて落ち着かなくなる。

G委員

- ・給食室は食材を運ぶルートが必要であるが、現校舎の配置では道に面していないので、搬入経路が確保できない。給食の運搬は忙しい。それぞれの校舎に配膳が難しいだろう。

事務局

- ・必ず小中一体の給食室を設けるという条件ではない。今後、課題を踏まえて検討していければと思う。

C委員

- ・コミュニティハウスは現状の位置か確認したい。

事務局

- ・用途は変わるだろうが、建物はこの位置である。

長澤委員長

- ・特別支援等の個別のテーマは教員の方にヒヤリングする等の機会を設けさせていただければと思う。

- ・給食室について現時点の計画条件という内容で説明されたが、協議事項になるのではないか。協議事項であればそのように示す必要がある。

協議事項

(5) 新しい学校施設づくりの目標案 *概要を事務局より報告

長澤委員長

- ・目標は建築界ではコンセプトという。形をつくるときの目標である。
- ・計画や設計段階では決めることが多くなる。その判断はとても労力があるものである。目標をつくるということは、その判断をするときの一つの指針とできればと思う。

B委員

- ・安全性や災害について記載があるが、体育館を一つにまとめることは不利ではないか。避難を考えると小中で共有する場ではなく、それぞれあるべきだと思う。

長澤委員長

- ・構造、設備と記載があるが、強い建物という事だけではなく、有事の際に対応できる施設として項目を挙げられるとよいと思う。
- ・これだけの項目があるので、次回もご意見をいただくということとして、この視点があるとよいというような形でご意見いただければと思う。

E委員

- ・案の作り方として、こうした大項目と小項目というかたちがよいかどうか。
- ・小項目として重複する言い回しがあり、具体的には何を示しているか明確にしていく必要があると思う。

F委員

- ・大島委員と同じく、項目が多く重複している内容もあるので、より多くの人に伝わりやすい形で整えられればと思う。

C委員

- ・地域に開くことは安全の部分で相反し、気軽に使えることと背中合わせになるのが防犯だと思う。垣根や敷居を外しとあるが、子どもたちの安全を守る整備が大切である。深く考える機会があるとよいと思う。

長澤委員長

- ・どのように表現するか考えていただきたい。

G委員

- ・市民からみれば地域開放はよいが、保護者の立場で考えると課題があるように思う。
- ・地域開放やコミュニティの利用で学校の先生に負担はかけられない。セキュリティの区画等も明確にできるとよさそうだ。事例も知りたい。

長澤委員長

- ・大きなテーマなので、どんな方法があるか等も提示しながら検討していければと思う。

H委員

- ・保護者の立場としては地域開放した際の安全面が気になる。例えば、体育館をスポーツクラブにしても、誰でも鍵を預けられることではない。
- ・図書館も授業だけで使うわけではない。誰が管理するのか。また子どもが施設に入ってきてても出て行けとはいえないだろう。地域開放は現実的ではない。地域支援本部に協力いただくこともあるだろうが、どのように体制を整えるかが課題ではないか。
- ・建物の大きさ、何を機能として入れるかはわからないが、保護者としては安全性が一番である。図書館や体育館の地域利用を求める市民ワークショップで意見がある中で、どのように安全性を求めるか。

長澤委員長

- ・地域利用に関する取り組みの紹介を事務局にお願いしたい。

B委員

- ・IDを会社等では使っている。学校でもそういったシステムを導入できれば安全なのではと思う。

D委員

- ・100年使える学校施設とある。社会情勢や教育がどんどん変わっていく中で、技術力のある日本では施設面では可能と思っている。フレキシブルな施設になるとよいと思う。

A委員

- ・言葉の整理は必要であるが、これまでの議論やワークショップでの考え方が集約されているように思う。
- ・共創は今回の事業ならではないか。上位にくる項目だと思う。

(6) 小中のつながりを活かした新しい学校の教育的可能性

※時間の都合により、次回以降の協議事項とする。

4. 次回の日程

- ・第4回策定委員会は学校視察である。実施は平日とする。日程が決まり次第、周知させていただく。
- ・第3回市民ワークショップ 日程が決まり次第周知させていただく

S以上